

「持ち上げない介助とは」

浜北愛光園 後藤美乃里

目的

タオル移乗を実施している利用者から
「迷惑をかけているのではないか」
「やってもらっている」という思い



対象者の残存能力の再確認
研修で学んだことの実践
福祉用具の利用



利用者の残存能力を活用

研究対象者の紹介

- ・ Aさん 女性
- ・ 80歳代
- ・ 左大腿骨折
- ・ リウマチ
- ・ コルセット使用
- ・ MMS 20点
- ・ エアマット使用



研究対象者の紹介

- ・ Bさん 女性
- ・ 80歳代
- ・ リウマチ
- ・ 抑うつ



研究対象者の紹介

- ・ Cさん 女性
- ・ 80歳代
- ・ 右片麻痺
- ・ 高血圧症



研究方法

- 研究者、担当職員、PT、OTが移乗の方法を撮影
- ユニット職員に撮影した動画を確認
- 職員1人ずつにレクチャーを行う（上記を3か月間に渡り、実施）
- 対象者の利用者および職員に2人介助と1人介助で移乗した時の違いを聞いたり、対象者の様子や状態を観察する



結果

Aさん・Bさんの感想

- ・トランスファーボードによる移乗の方が良い

Cさんの感想

- ・手すりが保持できる、体を傾けてボードを入れる手伝いをしてくれるなど、隠された能力を確認することができた

結果

職員からの感想

- ・今まで待たせていることが苦痛であった
- ・ボード使用が難しかったが、出来た時は共に喜んだ
- ・現在、浜北愛光園ではトランスファーボードによる移乗が各職員に定着しつつある

考察

- ・持ち上げる介助
→人力で運ばれるということ
- ・持ち上げない介助
→残存機能を生かし、「自分でできた」という気持ちになることができる
→利用者に協力してもらうことで、「自分も参加している」気持ちになることができる
- ・道具を使用すること
→事故につながりやすいため、習得が必要
利用者を観察し、できることを見極める

隠された能力を見出す

考察

- ・「自分では立ち上がれない」
⇒2人介助ではなく、残存能力を生かした移乗も可能ではないだろうか？
- 持ち上げない介助を行う事により、
利用者の生活や気持ちに良い影響を与える事ができる

ご静聴ありがとうございました